

## 住友の事業精神

### 第1条

わが住友の営業は信用を重んじ、確実を旨とし、もってその鞏固隆盛を期すべし

社会的な信用や相互の信頼関係を大切にし、何事も誠意をもって確実に対応することにより、事業の確実な発展を図っていくべきことを意味します。

### 第2条

わが住友の営業は時勢の変遷理財の得失を計り、弛張興廃することあるべしといえども、いやしくも浮利に趨り軽進すべからず

旧来の事業に安住してマンネリズムに陥ることなく、時代の移り変わりによる社会のニーズの動向を鋭敏にとらえて、新しく事業を興し、あるいは廃止する等の処置をとることを意味し、積極進取の姿勢が重要なことを表しています。同時に、いかなる場合においても、道義に反する手段で利益を追ったり、目先の利益に惑わされて、ものごとを十分調査・検討せずに取り進めたりしてはならないことを意味します。

1928年(昭和3年)住友合資会社社則「営業の要旨」より抜粋

## SMMグループ経営理念

住友の事業精神に基づき、地球および社会との共存を図り、健全な企業活動を通じて社会への貢献とステークホルダーへの責任を果たし、より信頼される企業をめざします

人間尊重を基本とし、その尊厳と価値を認め、明るく活力ある企業をめざします

## SMMグループ経営ビジョン

技術力を高め、ものづくり企業としての社会的な使命と責任を果たします

コンプライアンス、環境保全および安全確保を基本としたグローバルな企業活動により、資源を確保し、非鉄金属、機能性材料などの高品質な材料を提供し、企業価値の最大化をめざします

## 「世界の非鉄リーダー」を目指す

### 「世界の非鉄リーダー」とは

- 資源権益やメタル生産量においてグローバルでの存在感(=世界Top5に入るメタル)がある
- 資源メジャーでも容易に模倣できない、卓越した技術や独自のビジネスモデルを有している
- 持続的成長を実現し、安定して一定規模の利益をあげている
- SDGs等の社会課題に積極的に取り組んでいる
- 従業員がいきいきと働いている

### 長期ビジョン

当社グループは資源メジャーでも容易に模倣できない、卓越した技術や自社内で資源確保から高機能性材料の提供まで行う独自のビジネスモデルを有しています。これは当社グループの競争力の一つであるとともに資源や素材を限りなく有効に活用できることを意味します。

われわれは、これらの社会的価値を持続的な成長によって高めていくことで、世界の非鉄リーダーになりたいという思いを持っています。

資源権益やメタル生産量において、グローバルでの存在感(=世界Top5に入るメタル)があり、さらに持続的成長を実現し、安定した一定規模の利益を上げ、SDGs等の社会課題に積極的に取り組んでおり従業員がいきいきと働いている。これがわれわれの目指す長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」の姿です。

## ブランドベーシックデザインの制定

このたび、当社の長期ビジョンである「世界の非鉄リーダー」を目指し、実現するための意志表明として、ブランドメッセージの設定とその体现のための、社名ロゴマークのリニューアルとタグライン・シンボルマークをブランドベーシックデザインとして新たに制定しました。

### ブランドメッセージ

未来が、素材を必要としている。

持続可能な社会をつくる、その素材を必要としている。

人々の歓びや安心を生み出す、その素材を必要としている。

創業から430年。住友グループの源流事業を受け継ぐ住友金属鉱山は、鉱山開発と運営、金属を生み出す製錬、そして機能性材料をつくり出すところまでを安定的に担う、世界でも類のない企業として、独自の存在価値を発揮。

私たちの素材の供給が途絶えては、社会が止まってしまう。

一方で、鉱山の開発が、地球環境、地域社会の

サステナビリティを損なうものであってはならない。

地球市民として広い視野を持ち、

次世代への大きな責任を分かち合うパートナーとともに、

正しい事業を行う精神が私たちのDNA。

技術を高め、私たちが見出し、取り出すメタルが、

夢の材料となって機能し、人間の前進を支える。

今を生きる人のためだけでなく、

これから生まれ、次代を生きるいのちのために。

使命は脈々と続く。みんなの未来になる。

### 社名ロゴマーク

1983年に制定された社名ロゴマークの書体をベースに、430年を超える歴史の中で培った信頼感を大切にしながら、今まで以上に多様な方々に親しみをもって受け入れていただけるよう、デザインを見直しました。

## 住友金属鉱山

### SUMITOMO METAL MINING

### タグライン

「MINING THE FUTURE」(マイニング ザ フューチャー) 私たちが掘り起こす資源は、製錬され、材料となって未来を形づくるもの。「MINING THE FUTURE」は、これからも「未来を形づくる素材を提供する」のだという、私たちの提供価値、存在意義、意志の表明として社名ロゴマークやシンボルマークとともにブランドを表す統一した文言として使用します。

## MINING THE FUTURE

### シンボルマーク

鉱山とともに事業を行ってきた誇りと、大きな社会課題に挑み、道を開き、乗り越えていこうとする私たちの意志を、「SMM」の形に込めています。また「SMM」は「Smelting」「Mineral resources」「Materials」という私たちの3事業連携の象徴でもあります。



### ターゲット

#### ニッケル (Ni) ……生産量15万トン/年

世界的にトップクラス(5位程度)に位置する数量  
電池材料向けを含めた需要増加への責任ある数量

#### 銅 (Cu) ……権益分生産量30万トン/年

世界的に中堅クラスに位置する数量  
ケブラダ・プランカ2プロジェクト参画により達成見込み → さらなる維持

#### 金 (Au) ……優良権益獲得による鉱山オペレーションへの新規参画

権益数量を増やすよりも、優良案件への参画による収益力向上とオペレーションの経験値を増やす

#### 材料 ……ポートフォリオ経営による税引前利益250億円/年の実現

各製品群のライフサイクルを踏まえた事業のベスト・ミックスで、コア・ビジネスとしての存在感を示す

#### 利益 ……当期利益1,500億円/年

「世界の非鉄リーダー」に相応しいレベルの数値目標  
戦略投資の着実な実行と機会損失の極小化により、持続的に達成可能なレベル

## 目次

## Introduction

- 2 目次
- 3 統合報告書2020のコンセプト
- 4 住友金属鉱山グループの成り立ち
- 6 住友金属鉱山グループの概要
- 8 世界の非鉄金属産業と住友金属鉱山グループ

## 住友金属鉱山グループの価値創造

- 12 トップメッセージ
- 18 価値創造プロセス
- 20 機会とリスク
- 22 INPUT: 住友金属鉱山グループの資本  
住友の事業精神が培った「7つの競争力」
- 24 **特集1** 住友金属鉱山グループの  
「2030年のありたい姿」策定
- 30 **特集2** JCO臨界事故の教訓  
～組織で記憶し、システムで歯止めをする～
- 32 財務・非財務ハイライト
- 35 過去の中期経営計画の振り返り
- 37 18中期経営計画サマリー
- 38 2019年度の業績と2020年度の計画
- 40 財政状態と財務戦略

## アクティビティ&amp;レポート

- 42 資源事業
- 49 製錬事業
- 56 材料事業 電池材料/機能性材料
- 62 研究開発
- 67 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応

## 価値創造を支える基盤

- 68 コーポレートガバナンス
- 76 社外取締役メッセージ
- 78 役員一覧
- 80 住友金属鉱山グループのサステナビリティ  
マネジメントアプローチ
- 82 コンプライアンス
- 85 環境マネジメント
- 87 環境負荷低減へのアプローチ
- 88 リスクマネジメント
- 90 品質保証
- 92 安全・衛生
- 94 人権マネジメント
- 96 人材マネジメント
- 98 サプライチェーンマネジメント
- 100 ステークホルダーとのコミュニケーション
- 102 2020年のありたい姿振り返り
- 107 2030年のありたい姿
- 112 サステナビリティデータ集
- 120 第三者保証報告書
- 122 用語集

## 財務・データ

- 126 11年間の主要財務指標の推移
- 128 連結財政状態計算書/連結損益計算書/  
連結包括利益計算書
- 130 連結持分変動計算書
- 132 連結キャッシュフロー計算書
- 133 会社概要および株式に関する情報

## 統合報告書2020のコンセプト

「世界の非鉄リーダー」への決意と  
持続可能な社会形成に向けた取り組みをコミット

## 開示情報の厳選

「統合報告書2020」は、Introduction、住友金属鉱山グループの価値創造、アクティビティ&レポート、価値創造を支える基盤、財務・データの5セクションで構成し、長期投資家を中心とするステークホルダーにとって、より必要な情報を厳選しました。

特集では、当社の長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」の実現に向けたマイルストーンである「2030年のありたい姿」を取り上げ、サステナビリティ課題だけではなく、経営課題としての観点も含めて抽出、評価、選定した11の重要課題に対するありたい姿やKPIについて説明しています。

また、ESG情報をこの新たな重要課題と照らし合わせ、本統合報告書への掲載を絞り込むとともに、詳細は「ESGデータブック2020」として分冊化。本報告書の本編と連動させることで、これまで開示してきた情報の質と量を維持しつつ、読みやすさを追求しました。

## 統合思考に基づいた記載の改善

「価値創造プロセス」では、当社グループの価値創造モデルの特徴を明確化することを目的に、各プロセスの詳細をより定量化しました。

さらに、「過去の中期経営計画の振り返り」は、過去2回の中期経営計画を振り返ることで、経営の連続性を表現し、長期的な視点で経営を評価するコンテンツとして追加しました。

全編を通して、長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」たる高い目標と決意を表明し、事業戦略のみならず、「2030年のありたい姿」への取り組みを中心に、サステナビリティについてのコミットメントも示しています。

## ● 編集方針

お客様、株主・投資家、地域住民の方々をはじめとしたステークホルダーの皆様に、住友金属鉱山(SMM)グループが目指す“持続的な成長と企業価値の最大化”へ向けた取り組みについて、より一層ご理解いただくことを目的として、2016年より統合報告書を発行しています。5回目の発行となる本報告書「住友金属鉱山 統合報告書2020」では、長期ビジョンの実現のための2030年時点でのマイルストーンとして策定した「2030年のありたい姿」の紹介をはじめ、当社グループの価値創造についてよりご理解いただくために、事業を取り巻く機会やリスク、競争力や提供価値、ビジネスモデルや戦略を、より関連付けて説明しています。

## ● 参考としたガイドライン等および保証

本報告書の編集にあたっては、国際統合報告評議会(IIRC)の国際統合報告フレームワークおよび経済産業省の価値協創ガイドラインを参考にしています。また、サステナビリティ報告の開示情報については、GRI®のサステナビリティ・レポート・スタンダードの中核(Core)オプションに準拠するとともに、その自己宣言およびパフォーマンスデータ等に対する第三者保証を受けています。

※ GRI: Global Reporting Initiative の略。サステナビリティ報告書の国際的なガイドラインの作成・普及を目的とした団体。  
GRI内容索引については、当社ホームページ(<https://www.smm.co.jp/>)に掲載しています。

## ● 対象範囲

住友金属鉱山株式会社  
(SMM: Sumitomo Metal Mining Co., Ltd.)  
住友金属鉱山グループ(当社および連結子会社)  
経済性報告 当社、連結子会社、持分法適用会社  
環境報告 当社、連結子会社、持分法適用会社(計26社)  
※ 対象範囲はP6-7に記載している社名に\*印がついている会社と2019年3月に売却した(株)日東社が該当します。  
社会性報告 当社、連結子会社

## ● 発行年月

2020年9月 次回予定2021年9月(前回2019年9月)

## ● 対象期間

(一部、対象期間以前、もしくは以降の活動内容も含まれます)  
国内: 2019年4月1日～2020年3月31日  
海外: 2019年1月1日～2019年12月31日

## ● 参考にしたガイドライン

GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード  
IIRC 国際統合報告フレームワーク  
環境省環境報告ガイドライン(2018年版)  
経済産業省価値協創ガイドライン



## ● お問い合わせ先

住友金属鉱山株式会社 広報IR部  
〒105-8716 東京都港区新橋5丁目11番3号  
TEL 03-3436-7705 FAX 03-3434-2215

見直しに関する注意事項 本統合報告書に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 住友金属鉱山グループの成り立ち

1500
1600
1700
1800
1900

**歴史**

**経営・組織**

**資源事業**

**製錬事業**

**材料事業**

**1700年頃 長崎貿易の主力**  
江戸時代、銅は国際商品として国内生産高の約半分の量が長崎貿易により輸出されていました。住友は1698年に年産約1,500トンの産銅量に達し、これは当時の国内生産高の四分の一を占める量に相当します。

**1650年頃 文殊院旨意書** (もんじゅいんしいがき)  
現代に続く住友の事業精神は、住友家初代政友(1585年～1652年)が晩年、商人の心得を説いた文殊院旨意書が源となっています。



**1894年 大規模植林事業**  
2代総理事・伊庭貞剛が別子銅山支配人に就任し、大規模な植林事業を開始。ピーク時には毎年200万本を超える植林を行い、別子山を緑あふれる山に蘇らせました。



旧別子銅山(左)と現在(右)

**1980年頃 ステンレス鋼の普及**  
ニッケルはステンレス鋼や特殊鋼の原料として使用されており、これらの素材は通信、医療、建材、発電など様々な分野で活用されています。

**1590年 銅製錬事業の始まり**

**銅製錬**

**1691年 別子銅山開坑**



**1905年 新居浜沿岸部から四阪島に製錬所を移設**

**1917年 金鉱山事業を開始**



鴻之舞鉱山

**1939年 ニッケルの製錬事業を開始**

**海外銅鉱山**

1961年 カナダ・ベスレームへの投融資買鉱契約を締結

1973年 鴻之舞鉱山閉山、別子銅山閉山

1979年 佐々連鉱山閉山

**1971年 東予工場の生産開始**

**1939年 ニッケルの製錬事業を開始**

**ニッケル製錬**

**1950年代 世界をリードするニッケル製錬技術**  
1939年にスタートしたニッケル製錬事業が、後にMCLE法などニッケル製錬技術の開発、2000年代にはHPAL技術の実用化による原料調達が多様化など、世界のニッケル製錬技術をリードしていきます。



**1960年 材料事業へ進出**

**1961年 海外銅鉱山への参画と権益の取得**  
戦後、国内鉱山の閉山により海外から原料を調達し製錬する方式への転換を余儀なくされていました。1961年にベスレームへの投融資買鉱契約を締結し、海外鉱山へ参画。現在に至る鉱山権益への足掛かりをつくり、1986年には優良な鉱山として知られるモレンシー銅鉱山の権益を取得しました。



**1961年 海外銅鉱山への参画と権益の取得**

## コラム

**資源事業 1691**  
**300年以上受け継がれる鉱山技術**  
別子銅山は開坑から283年にわたり操業を続け、住友の発展に大きく寄与しました。この別子銅山の開坑を機に、住友の事業は銅の製錬事業に加え資源事業へと広がっていきます。別子銅山で培われた鉱山技術は、世界に広がる当社の資源事業に脈々と受け継がれています。

**資源事業 1917**  
**金鉱山事業の開始**  
資源としての金の重要性が高まる中、北海道・鴻之舞鉱山の経営権を取得。銅鉱山が中心だった資源事業のポートフォリオに、新たに金加わりました。



**製錬事業 1939**  
**四阪島、煙害の克服**  
1939年、煙害の根本原因であった亜硫酸ガスの排出ゼロを実現し、世界中の銅製錬所が抱えていた煙害問題を世界に先駆けて解決しました。



**資源事業 1961**  
**海外銅鉱山への参画と権益の取得**  
戦後、国内鉱山の閉山により海外から原料を調達し製錬する方式への転換を余儀なくされていました。1961年にベスレームへの投融資買鉱契約を締結し、海外鉱山へ参画。現在に至る鉱山権益への足掛かりをつくり、1986年には優良な鉱山として知られるモレンシー銅鉱山の権益を取得しました。

## 2000

### 2000年頃 車載向け電池正極材の需要急増

環境意識の高まりなどを背景に、ハイブリッド車や電気自動車向け車載向け電池正極材の需要が急速に増加しました。当社グループではお客様との密接な連携により、高性能で安全な電池正極材の供給を図るとともに、電池正極材の原料であるニッケルおよびコバルト生産者としての責務を果たしています。

#### 1999年 JCO臨界事故

原子力発電用の核燃料を製造する子会社・株式会社ジェー・シー・オーで臨界事故が発生。当社グループはこの反省から2000年に「企業再生計画」を策定し、企業理念の再確認と徹底、企業体質の強化、企業風土の改革などを進めました。

#### 2010年 資源×製錬×材料の3コア事業へ

09中計で「資源×製錬×材料」の3コア事業へのビジネスモデルの転換を発表。経営資源をコアビジネスへ積極的に集中・投資しました。

#### 2017年 働き方改革の推進に向けた宣言文の発行

2019年  
長期ビジョン見直し  
18中計を発表。長期ビジョンを見直し、「世界の非鉄リーダー」として当期利益1,500億円/年とする目標を発表しました。

2020年  
「2030年のありたい姿」を策定  
当社グループの長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」を実現するための2030年時点でのマイルストーンとして、「2030年のありたい姿」を策定しました。

1985年  
菱刈鉱山の操業を開始

1986年  
モレンシー銅鉱山の権益を取得。海外銅鉱山への投資を本格化

2006年  
セロ・ベルデ銅鉱山生産開始

2015年  
シエラゴルダ銅鉱山の生産を開始



2016年  
モレンシー銅鉱山の権益追加取得

2017年  
コテ金鉱山の権益を取得

2019年  
ケブラダ・ブランカ銅鉱山の権益を取得

1993年  
ニッケル製造プロセスをMCLE法に転換



2005年  
コーラルベイニッケル生産開始

#### イノベーション・トピックス

##### HPAL法の実用化

世界に先駆けてHPAL法による低品位ニッケル酸化鉱からのニッケル資源化を実用化。ニッケル資源の有効活用と自社調達に寄与するとともに、事業拠点であるフィリピンでの社会貢献活動なども行っています。

2013年  
タガニートHPAL生産開始



2001年  
車載向け電池正極材の生産を開始

#### イノベーション・トピックス

##### 電池の高容量化を可能に

当社グループが生産するNCA（ニッケル酸リチウム）はニッケルの含有率が高く、電池の高容量化を可能にしました。原料調達から電池材料供給まで一貫生産ができる強みを活かすとともに、電気自動車が一度の充電で走行できる距離を長くすることに貢献しています。

2014年  
電池材料の増産、SAWフィルターLT/LN<sup>※1</sup>の増産



NCA（ニッケル酸リチウム）

※1 LT/LN：LT（Lithium Tantalate）/LN（Lithium Niobate）。タンタル酸リチウム基板/ニオブ酸リチウム基板。情報通信端末用SAWフィルターのチップに用いられる。

### 資源事業

### 1985

#### 菱刈鉱山の操業開始

1979年、佐々連鉱山の閉山により引き継がれてきた鉱山技術の幕が一度は閉じることとなります。しかし1985年に菱刈鉱山が操業を開始。当社グループの技術は新たな場所で歴史を刻み始めました。現在まで豊富な金含有率を誇り収益の柱となるとともに、鉱山技術を継承する役割も担っています。

### 経営

### 1999

#### JCO臨界事故からの企業再生

当社グループの経営のターニングポイントは1999年のJCO臨界事故にあります。これ以降、企業再生計画による原点回帰、コンプライアンス順守に大きく舵を切りました。事故後20年を越える中で、記憶を風化させず、若い世代にも事故の教訓を受け継いでいます。

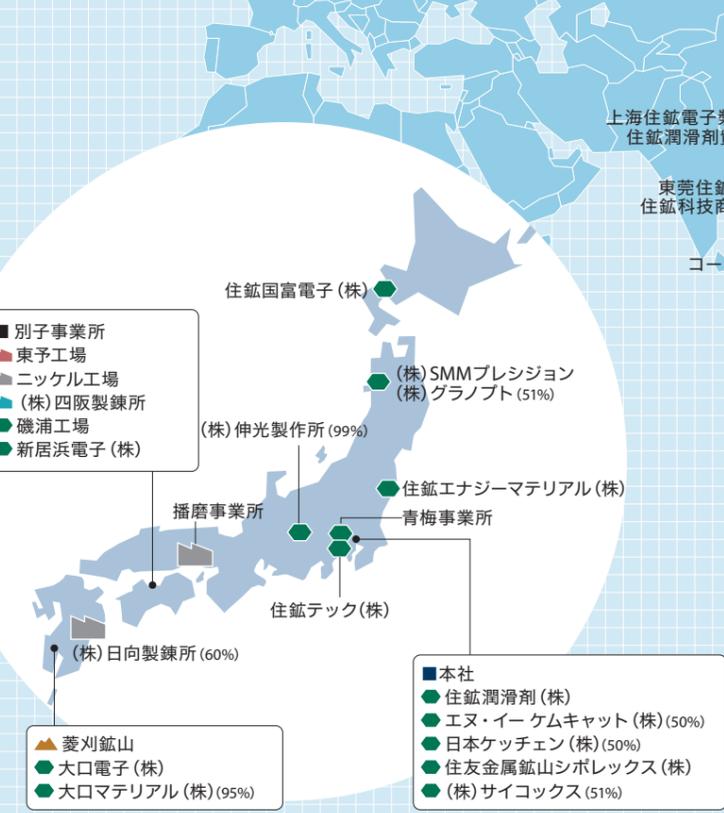
### 材料事業

### 2014

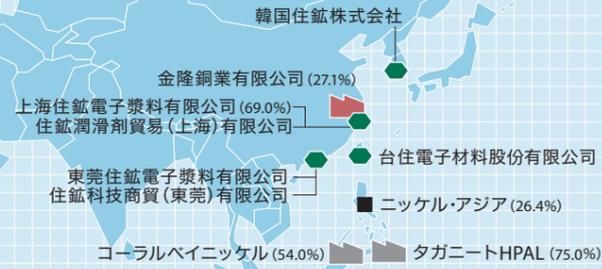
#### 電池材料の増産

2014年、車載向け電池正極材の増産と播磨事業所事業構造転換による硫酸ニッケル増産を発表。ニッケル原料の調達から加工までを一貫して手掛けている強みを活かし、材料のさらなる高性能化と安定供給を図りました。

# 住友金属鉱山グループの概要 (2020年7月1日現在)



※ 国内関係会社は本社所在地を示しています。



**資源セグメント** ▲ 銅 ▲ 金  
**製錬セグメント** ▲ 銅 ▲ ニッケル ▲ その他  
**材料セグメント** ● 材料事業の主要拠点  
 ■ その他の主要拠点 関係会社  
 ( ) は出資比率。記載のないものは100%

## 企業概要

社名	住友金属鉱山株式会社
代表者	代表取締役社長 野崎 明
創業	1590年(天正18年)
設立	1950年(昭和25年)
資本金	932億円
上場市場	東証一部
連結子会社数	56社(金銭の信託を含む)
持分法適用会社数	15社
売上高	連結8,726億円(2020年3月期)
税引前利益	連結790億円(2020年3月期)

## 主要な営業所および工場等

本社	東京都港区新橋5丁目11番3号(新橋住友ビル)
支社	大阪支社
支店等	名古屋支店 別子事業所(愛媛県新居浜市)
工場等	東予工場(愛媛県西条市) ニッケル工場(愛媛県新居浜市) 播磨事業所(兵庫県加古郡播磨町) 青梅事業所(東京都青梅市) 磯浦工場(愛媛県新居浜市)
鉱山	菱刈鉱山(鹿児島県伊佐市)
研究所	新居浜研究所(愛媛県新居浜市) 電池研究所(愛媛県新居浜市) 材料研究所(東京都青梅市) 市川研究センター(千葉県市川市)

## 主要製品等

資源セグメント	金銀鉱、銅精鉱、銅、金
製錬セグメント	銅、金、銀、電気ニッケル、 電気コバルト、フェロニッケル、 パラジウム、化成品
材料セグメント	電池材料、ペースト、粉体材料、 結晶材料、薄膜材料、磁性材料、 パッケージ材料、石油精製触媒、 自動車触媒、軽量気泡コンクリート、 潤滑剤

## 事業展開をしている国および地域数

15

◆ 連結子会社 ● 持分法適用会社 \* 環境報告の対象範囲

### 日本

#### 住友金属鉱山株式会社\*

##### 資源事業

- ◆ 住友資源開発(株)
- ◆ 住友ソロモン探鉱(株)

##### 製錬事業

- (株)アシックス
- エム・エスジック(株)
- ◆ (株)四阪製錬所\*
- ◆ 住友物流(株)\*
- ◆ (株)日向製錬所\*
- 三井住友金属鉱山伸銅(株)

##### 材料事業

- ◆ (株)SMMプレジジョン\*
- エヌ・イーケムキャット(株)
- ◆ 大口電子(株)\*
- ◆ 大口マテリアル(株)\*
- ◆ (株)グラノプト\*
- ◆ (株)サイコックス
- ◆ (株)伸光製作所\*
- ◆ 住友エンジニアテリアル(株)\*
- ◆ 住友国富電子(株)\*
- ◆ 住友潤滑剤(株)\*
- ◆ 住友テック(株)\*

- ◆ 住友金属鉱山シボレックス(株)\*
- ◆ 新居浜電子(株)\*
- 日本ケッチェン(株)\*

##### その他

- ◆ マゲタハイム(株)\*
- ◆ (株)ジェー・シー・オー\*
- ◆ 住友技術サービス(株)
- ◆ 住友テクノロジーサーチ(株)\*
- ◆ 住友金属鉱山エンジニアリング(株)\*
- ◆ 日本照射サービス(株)\*

### アジア

##### 資源事業

- Cordillera Exploration Company Inc. (フィリピン)

##### 製錬事業

- 金隆銅業有限公司(中国)
- ◆ 住友金属鉱山管理(上海)有限公司(中国)
- ◆ 住友金属鉱山(香港)有限公司(中国)
- ◆ Coral Bay Nickel Corporation(フィリピン)\*
- Nickel Asia Corporation(フィリピン)
- ◆ Taganito HPAL Nickel Corporation(フィリピン)\*
- ◆ Sumitomo Metal Mining Philippine Holdings Corporation(フィリピン)
- P.T. Vale Indonesia Tbk.(インドネシア)

### 材料事業

- ◆ 東莞住友電子塗料有限公司: DEP(中国)\*
- ◆ 上海住友電子塗料有限公司: SEP(中国)\*
- ◆ 住友潤滑剤貿易(上海)有限公司(中国)
- ◆ 住友科技商貿(東莞)有限公司(中国)
- ◆ 格藍光学材料貿易(深圳)有限公司(中国)
- ◆ 住友電子材料股份有限公司: TSM(台湾)\*
- ◆ 韓国住友株式会社: SMMK(韓国)
- ◆ Sumiko Tec(Thailand) Co., Ltd.(タイ)

### 北米

##### 資源事業

- ◆ SMMA Candelaria Inc.(アメリカ)
- ◆ SMM Exploration Corporation(アメリカ)
- ◆ Sumitomo Metal Mining America Inc.(アメリカ)
- ◆ Sumitomo Metal Mining Arizona Inc.(アメリカ)
- ◆ SMM Morenci Inc.(アメリカ)
- ◆ SMM Gold Cote Inc.(カナダ)
- ◆ Sumitomo Metal Mining Canada Ltd.(カナダ)
- ◆ SMM Resources Inc.(カナダ)

### その他地域

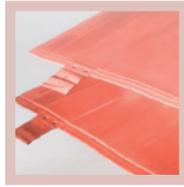
##### 資源事業

- Compania Contractual Minera Candelaria(チリ)
- Compania Contractual Minera Ojos del Salado(チリ)
- ◆ Sumitomo Metal Mining Chile LTDA.(チリ)
- ◆ SMM Sierra Gorda Inversiones LTDA.(チリ)
- Sierra Gorda S.C.M.(チリ)
- ◆ SMM-SG Holding Inversiones LTDA.(チリ)
- ◆ SMMQB Holding SpA(チリ)
- ◆ SMM Quebrada Blanca SpA(チリ)
- Quebrada Blanca Holdings SpA(チリ)
- ◆ Sumitomo Metal Mining Peru S.A.(ペルー)
- Sociedad Minera Cerro Verde S.A.A.(ペルー)
- ◆ Sumitomo Metal Mining do Brasil LTDA.(ブラジル)
- ◆ Sumitomo Metal Mining Oceania Pty. Ltd.(オーストラリア)
- ◆ SMM Cerro Verde Netherlands B.V.(オランダ)
- ◆ SMM CV Holding B.V.(オランダ)
- ◆ SMM Holland B.V.(オランダ)

##### 製錬事業

- FIGESBAL(ニュージーランド)

# 世界の非鉄金属産業と住友金属鉱山グループ



## 銅を取り巻く事業環境

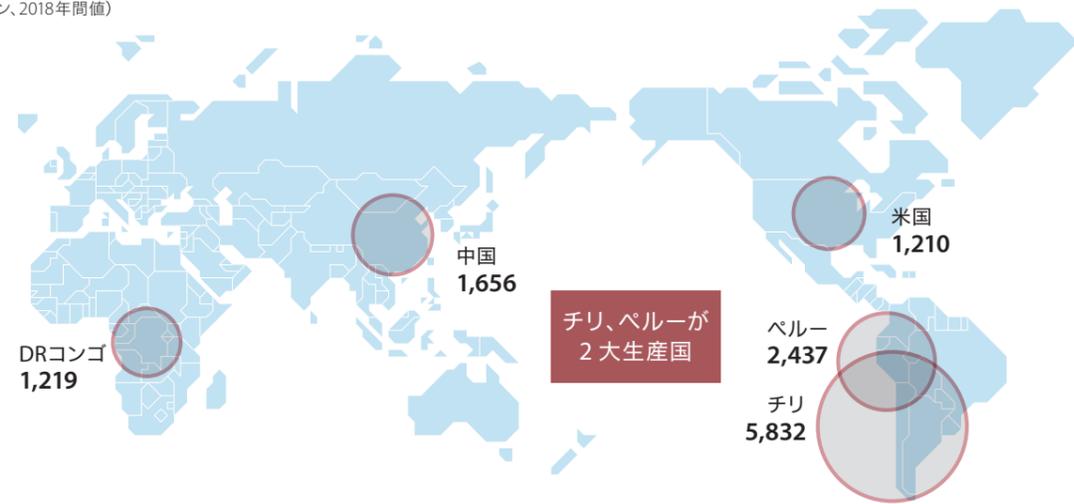
銅は人類の歴史上、最初に利用された金属であるといわれています。高い導電性と熱伝導性があり、比較的安価で加工性に優れることから、電線や伸銅品として様々な産業分野で欠かすことのできないベースメタルとして利用されてきました。

銅鉱石は、チリとペルーが世界の2大生産国であり、これに中国、米国が続いています。

銅は、電線や伸銅品としてインフラを中心に様々な産業分野に欠かすことのできないベースメタルであり、中国が世界需要の約半分を占めています。世界経済の発展に伴い、今後も堅調な需要増加が見込まれています。一方、供給面では、世界の優良鉱山の開発が進むにつれ、今後の新規開発案件は奥地化、高地化、低品位化が避けられないことから難しさを増しており、リサイクル品を含めてもタイトな状況が続くと思われます。

## 世界の主要銅鉱石生産国

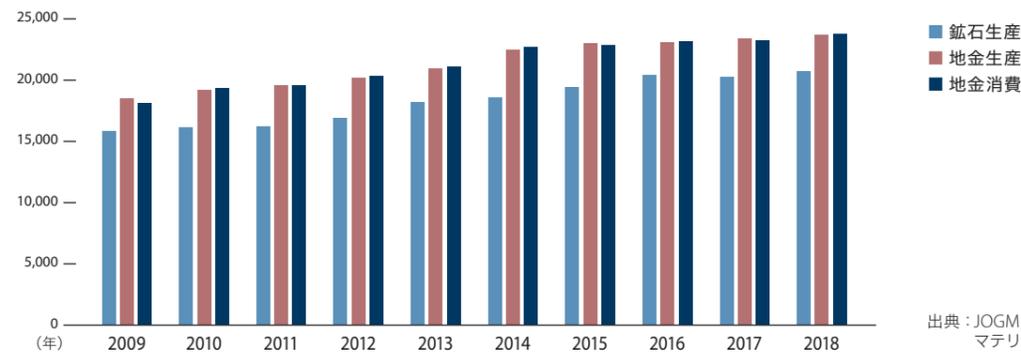
(千トン、2018年間値)



出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー2019

## 世界の銅需給動向

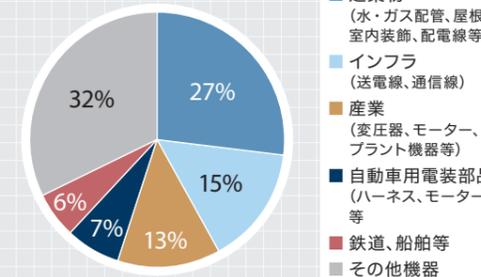
(純分千トン)



出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー2019

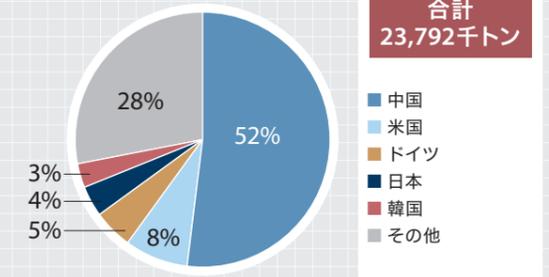
## 銅に関する統計データ

### 銅の用途 (2019年実績)



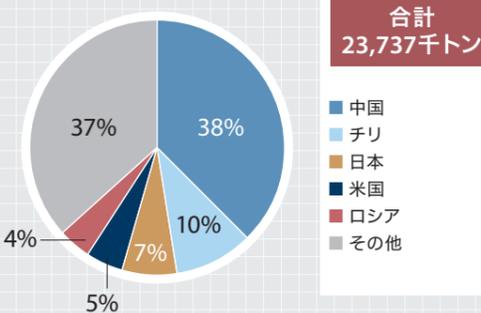
出典：The International Wrought Copper Council (IWCC) and the International Copper Association (ICA)

### 国地域別銅地金消費量 (2018年実績)



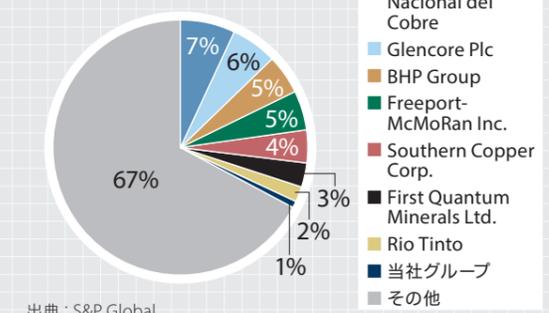
出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー 2019

### 国別銅地金生産量 (2018年実績)



出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー 2019

### 世界の銅権益分生産量 (2019年実績)

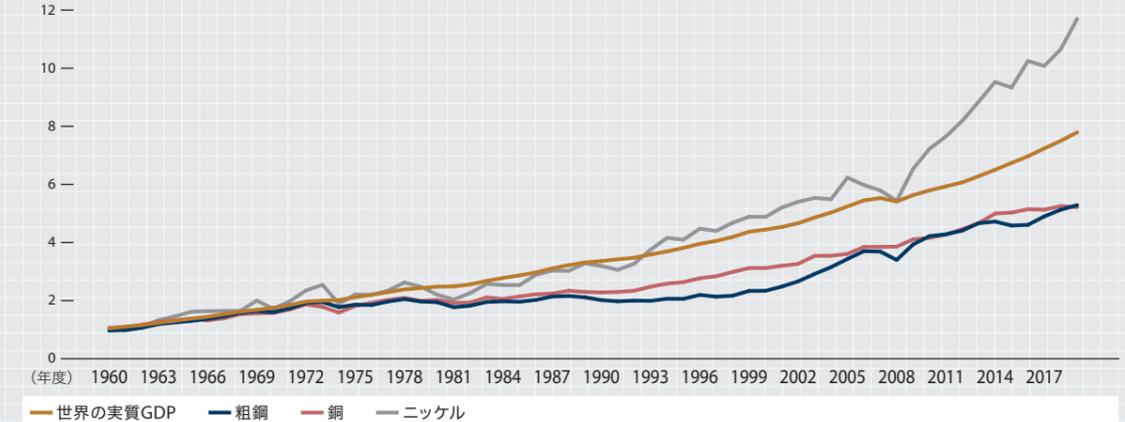


出典：S&P Global

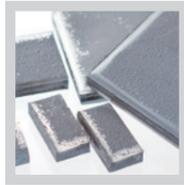
世界の銅市場規模は約2,400万トン  
当社グループの銅権益分生産量(2019年度：26万トン)は世界第18位

## 世界の資源需要推移

(1960=1)



出典：当社調べ



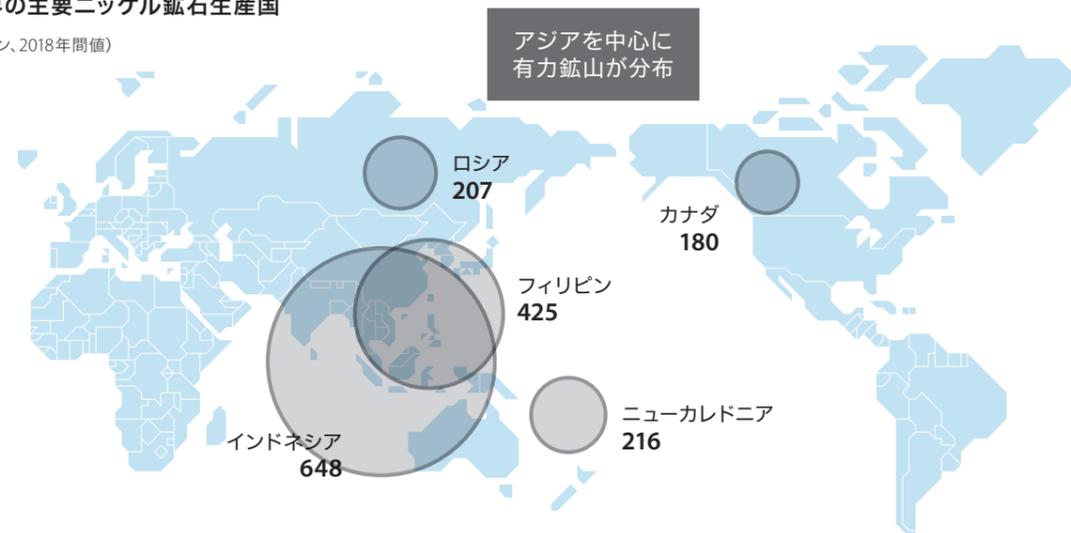
### ■ ニッケルを取り巻く事業環境

ニッケルの主な用途はステンレス鋼向けであり、今後も一定の需要増加が見込まれていますが、これに加え、近年世界的な自動車の電動化の流れが加速するにつれ、リチウムイオン二次電池の正極材向けの需要増加が見込まれています。

ニッケル鉱石は、インドネシア、フィリピンが世界の2大生産国です。ニッケルの用途はステンレス鋼向けが全体の約70%を占めており、銅と同じく世界需要の約半分を中国が占めています。需要の伸びは、近年、銅の伸び率を大きく上回っており、今後も自動車の普及につれてリチウムイオン二次電池の正極材向けの需要が増加するものと見込まれています。一方、供給面では、主としてステンレス生産の原料となるフェロニッケルやニッケル銑鉄(NPI)など「クラス2」と呼ばれるニッケル品位がそれほど高くないカテゴリーの製品は、中国企業によるインドネシア等での開発が活発であるものの、特殊鋼や自動車向け電池の原料となる「クラス1」と呼ばれる高品位ニッケルカテゴリーの製品は、具体的な新規開発が限定的であり需要が供給を上回る状況が続くものと思われま

### 世界の主要ニッケル鉱石生産国

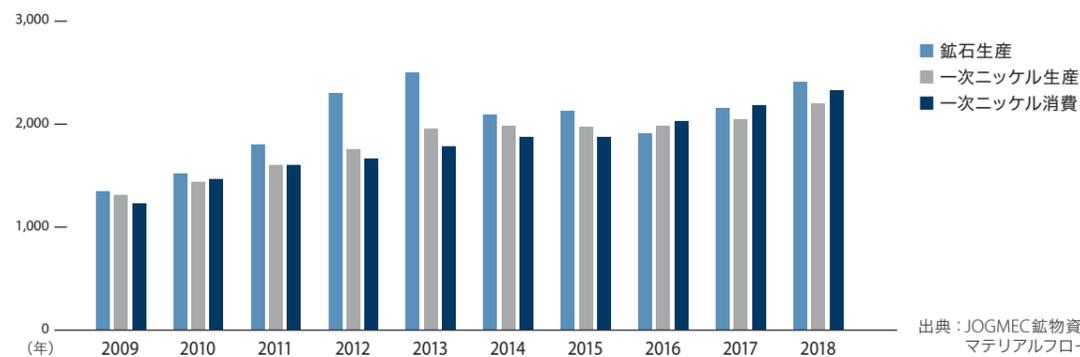
(千トン、2018年間値)



出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー2019

### 世界のニッケル需給動向

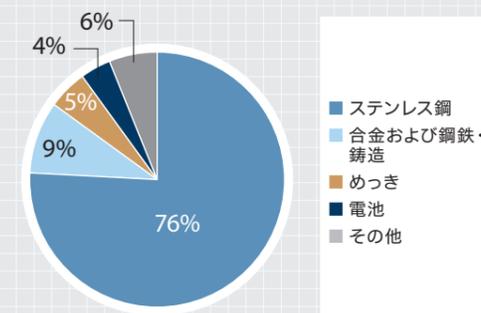
(純分千トン)



出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー2019

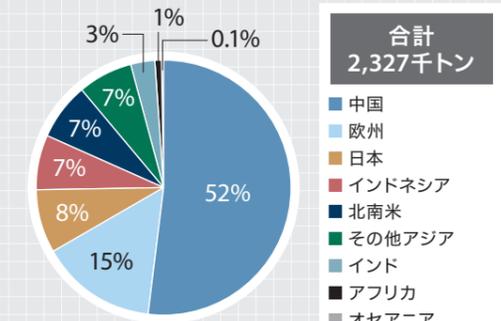
### ニッケルに関する統計データ

#### ニッケルの用途



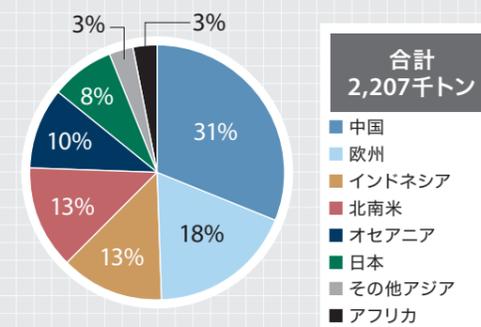
出典：S&P Global Market Intelligence (2020年6月9日)

#### 国地域別ニッケル地金消費量 (2018年実績)



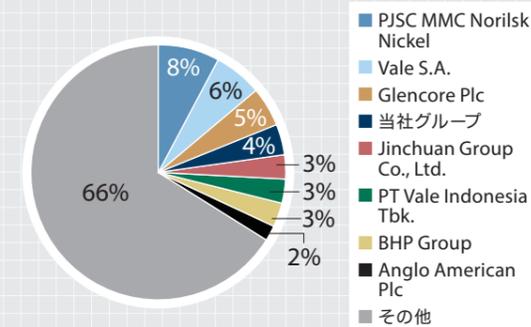
出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー 2019

#### 国地域別ニッケル地金生産量 (2018年実績)



出典：JOGMEC 鉱物資源マテリアルフロー 2019

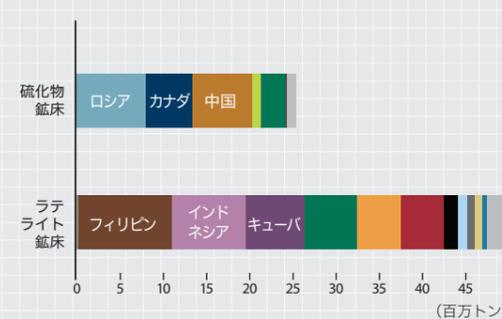
#### 世界のニッケル権益生産量 (2019年実績)



出典：S&P Global  
※ 各社鉱山権益生産量、当社グループはメタル生産量

当社グループのニッケルメタル生産量(2019年度:9.0万トン)は世界TOP5の規模

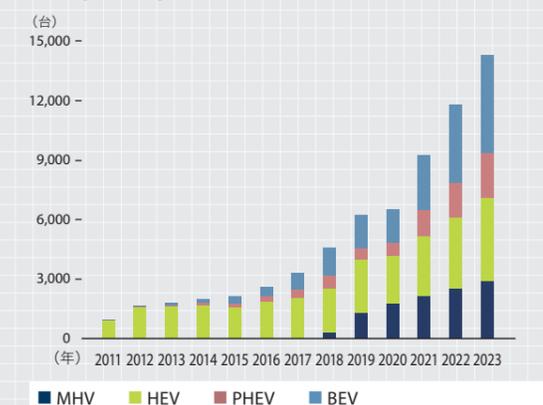
#### 埋蔵量に含まれるニッケル



■ 南アフリカ ■ オーストラリア ■ ニューカレドニア  
■ ブラジル ■ グアテマラ ■ マダガスカル  
■ ドミニカ共和国 ■ カザフスタン ■ パプアニューギニア  
■ その他

出典：S&P Global Market Intelligence (2020年6月10日)

#### xEV (電動車)の販売台数



※ 2020年以降は予測値

出典：B3 report